

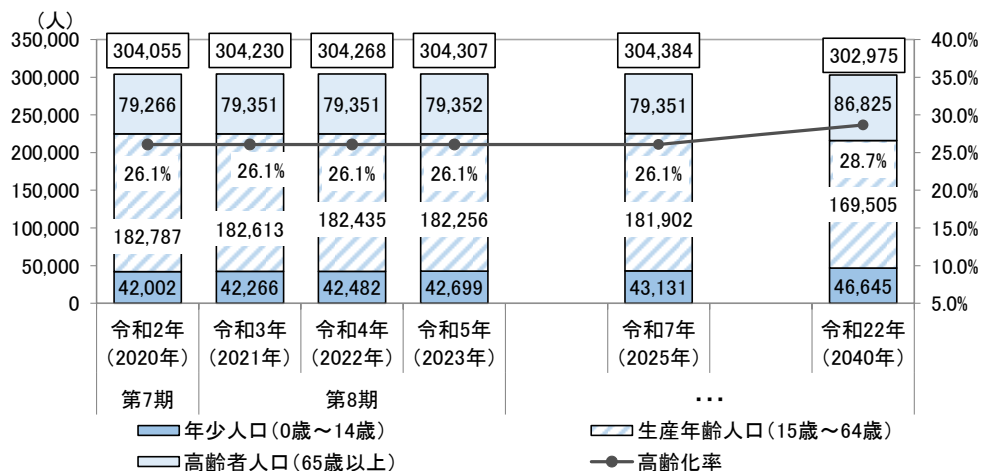
人口、認定者数の将来推計について

① 人口の推計

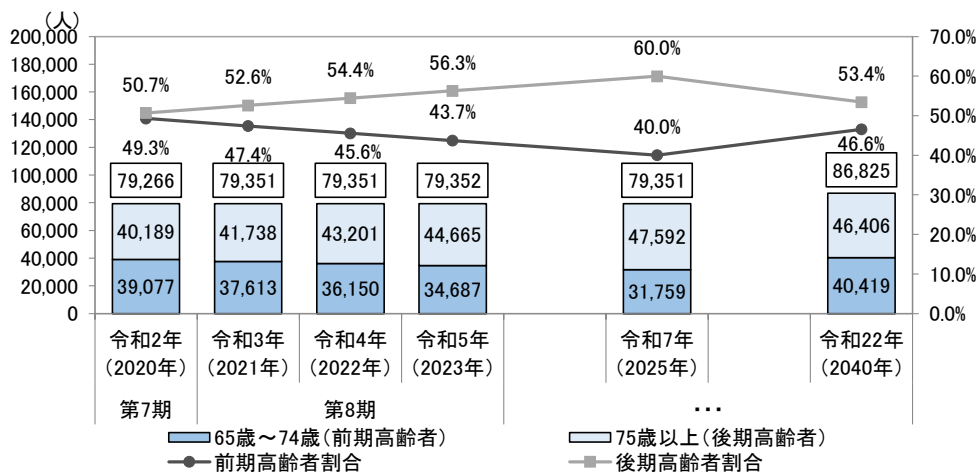
総人口をみると、令和7年（2025年）までは緩やかに増加、その後令和22年（2040年）ではやや減少すると考えられます。高齢者人口をみると、令和22年（2040年）まで継続して増加する見込みです。高齢化率は令和7年（2025年）まで横ばいで推移しますが、令和22年（2040年）では28.7%と高くなる推計となっています。

高齢者人口に占める前期高齢者と後期高齢者の割合をみると、令和2年（2020年）現在ではどちらもおよそ5割となっていますが、令和7年（2025年）までは、後期高齢者割合が上昇していくと考えられます。令和22年（2040年）には、前期高齢者割合と後期高齢者割合の差は令和7年（2025年）に比べ小さくなる推計となっています。

■ 総人口における高齢化率について



■ 高齢者人口における前期高齢者、後期高齢者の割合について



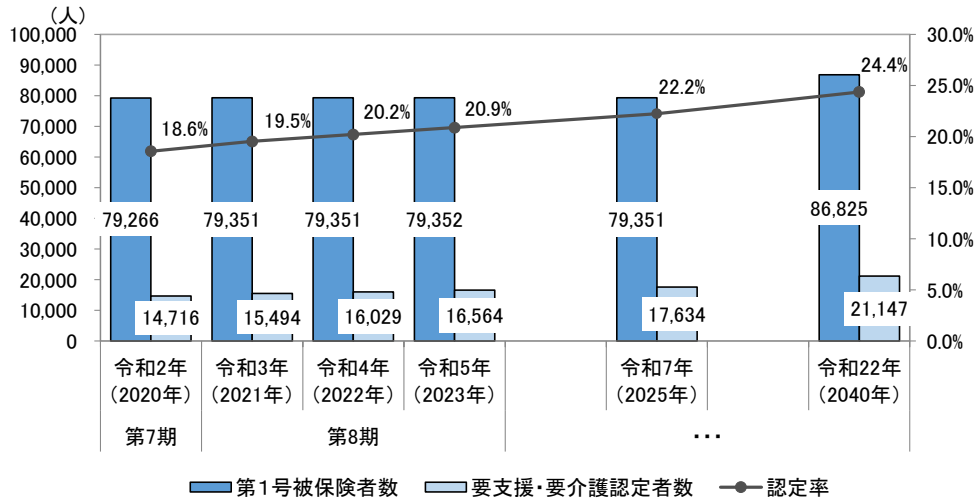
※令和2年（2020年）7月1日住民基本台帳人口に基づきコーホート要因法で推計

※「コーホート要因法」は、同年に出生した集団（コーホート）の「自然増減」（出生と死亡）及び「純移動」（転出入）という二つの「人口変動要因」それぞれについて将来値を仮定し、それに基づいて将来人口を推計する方法

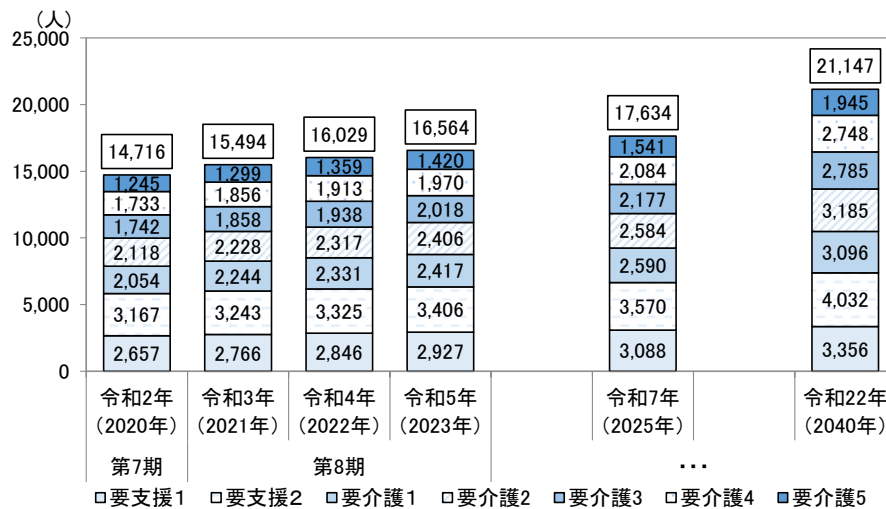
② 要支援・要介護認定者数の推計

要支援・要介護認定者数の推計をみると、令和22年（2040年）まで継続して増加する見込みです。それに伴い認定率も上昇し、令和4年（2022年）には20%を超え、令和22年（2040年）には24.4%となる推計となっています。

■ 第一号被保険者における認定者数及び認定率について



■ 要介護認定者における、要介護度別人数について



※令和2年（2020年）7月1日住民基本台帳人口に基づいたコーホート要因法による性・年齢別（5歳刻み）人口推計に、性・年齢別（5歳刻み）認定率（平成29年（2017年）～令和元年（2019年平均））を乗じて推計